

Two of Us

ふたりの出会い



倉重良一 大川市市長

くらしげ・りょういち / 1977年5月21日生まれ。早稲田大政治経済学部を卒業後、後に父・博文氏が会長となる福岡県農業協同組合中央会（JA福岡中央会）に勤務。2016年、鳩山二郎・大川市長（当時、現衆議院議員）の国政転身に伴う大川市長選に出馬し初当選。現在2期目。「怒（思いやりの心）の実践」が座右の銘。趣味はジヨギングや料理、読書。

若き首長として地域を引っ張る二人は、共に佐賀県で随一の進学校、弘学館中学・高校のOBだ。3歳年上の倉重氏が高校1年のとき、坂井氏が中学に入学したため在学中は接点はなかった。が、一昨年の佐賀市長選に出馬した坂井氏のもとを、母校の先輩として大川市長の倉重氏が陣中見舞いに訪れたのをきっかけに、二人の関係の歯車が回り出した。福岡県大川市と佐賀市は共に有明海沿岸に位置し、筑後川を挟んで隣り合う。年齢も近い両氏の関係が、ボーダーレスな発展を導く?!

坂井英隆 佐賀市市長

さかい・ひでたか / 1980年5月7日生まれ。慶應義塾大法学部大学院修了。2008年司法試験に合格し、翌09年から都内法律事務所弁護士業務に従事。14年国土交通省に入省し官僚の仕事を経験した後、21年10月の佐賀市長選挙に出馬し初当選。元衆議院議員、坂井隆憲氏（故人）の長男。尊敬する人物は鍋島直正。好きな言葉は「志は高く、頭は低く」。

「隣で頑張っていると思えるだけで心強い」—— 〈倉重〉

知り合ってまだ1年数カ月ですが、隣の佐賀市の市長が弘学館の後輩で、しかも同世代というのは心強いし、夢を語り合える関係でありたいと思っています。私たちは、かつての高度成長期のような発展を描けない時代を生きています。同世代だからそんな感覚を共有できるし、しかも坂井さんは、同じ釜の飯を食ったも同然の関係です。

先日、九州市長会の総会に出席したのですが、その合間の時間をやりくりして、U-45（45歳以下）の市長8人で勉強会を開きました。私や坂井さんも参加し、共通の課題や悩みなどを語り合いました。そんな仲間がいるだけで、ありがたいと思うんです。市長になって感じたのは、この立場はこんなにも孤独なんだということ。組織の長というのは、日々、問題に直面したり、決断を迫られる役割ですが、そんなとき、じかに相談するようなことはなくても、心の中で、隣で坂井さんも頑張っているんだと思えるだけで、気持ちを強く持つことができます。

一緒にお酒を飲む機会もありますが、坂井さんはそんなときも真面目で（笑）、酒の席も仕事の延長でやってきた私とはタイプが違います。が、いける口なので最後まで一緒に楽しめる後輩です。地域を発展させる夢に向かって、これからも信頼し刺激し合えるような関係でありたいですね。

「先輩が市長になったことで勇気もらった」—— 〈坂井〉

私は弘学館に通っているころから、政治家を志していました。大学に進学し、社会人になってからもその思いを持ち続けていましたが、内心「どうやったら役に立てるのだろう？」と、暗中模索の日々でした。そんなとき、大川市長選に突如立候補し、大勝してみせたのが倉重さんで、すごいなと感心しましたし、勇気を与えてもらいました。いずれお会いしたいなと思っていたところ、私が出馬したときに選挙事務所を訪ねて来られ、そこから付き合いが始まりました。

弘学館は全寮制なのですが、そこで中高6年間を同じように過ごした先輩ということで、同じ釜の飯を食った仲間のような親近感があります。1、2歳の年齢差だと先輩後輩の厳しい関係になりがちですが、3歳離れているからかそれがなく（笑）、温かく見守ってくれる兄貴のような存在です。

大川と佐賀は、双方の市民が通勤や通学で行き来する関係にあります。昨年11月の「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」では、その模様をYouTube配信したのですが、これにスペシャルゲストとして倉重さんに出演してもらいました。また同月、有明海沿岸道路が大川から佐賀へ延伸し、同道路による福岡と佐賀の直結が実現しました。私たちが仲が良いのは当たり前として、今後はこれまで以上に交流の輪を広げていきたいですね。